

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586018902	科目番号 / Subject code	05860189
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教育の基礎 (教育心理)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	吉田 ゆり		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	吉田 ゆり		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	吉田 ゆり		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目, 教職に関する科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟21		
対象学生(クラス等) / Object Student	教職履修者		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	yuyoshida@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部220研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2394		
担当教員オフィスアワー/Office hours	前期 月曜日 後期 木曜日		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	将来教職に就くものにとって、各教科の指導内容・方法に精通することに加え、教育指導をどのように行うかにあたり児童生徒の心身の発達、学習のメカニズムやその動機づけ、健全なパーソナリティの育成等について基礎・基本となる教育心理学的な知識や基本的な教育的態度の習得は必要とされる。		
授業到達目標/Goal	教育的諸事象を心理学の視点から捉え考察することができる。 教育心理学の知見を効果的な指導に役立てることができる。		
授業方法(学習指導法)/Method	講義形式を中心として、適宜テーマに応じた討議を行う。 特に教育評価については問題演習、体験学習・体験活動においては学校集団を想定した体験学習、不登校や不適応感、発達障害児については模擬事例等の検討を行う。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	幼児期 児童期 青年前期 学習 動機付け 発達 評価 発達障害 不登校 学級集団 適応・不適応		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	特に指定しない。プリントを配布する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	小レポート(2回)30% 学期末試験 70%		
受講要件(履修条件)/Requirements	指定しないが、教職課程を履修するものを原則とする。		
学生へのメッセージ/Message for students	教育現場の実際を踏まえて、中学生・高校生の心の育ちをどう考えるのか、実証的な心理学研究の蓄積からなにが出来るのか、考える時間にしてほしいと思います。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	教育心理学の役割・性質		
第2回	幼児・児童生徒の発達 乳幼児期から児童期の発達		
第3回	幼児・児童生徒の発達 社会性と自己の発達、思春期の課題を中心に		
第4回	幼児・児童生徒の発達 青年期 ライフサイクル、ジェンダー、生涯発達		
第5回	学習 学習の理論		
第6回	学習 学習の動機づけ		
第7回	学習 教授法 ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」を中心に		
第8回	教育評価 知能観と知能検査、発達検査、教育評価ツール		
第9回	教育評価 教育アセスメント(相対評価・絶対評価および個人内評価)		
第10回	教師の心理 教師のストレスと体験学習・体験活動を中心に		
第11回	学級集団の心理と指導 適応と不適応、		
第12回	発達障害 発達障害の諸相(自閉症スペクトラム、学習障害、ADHD)		
第13回	発達障害 発達障害児のアセスメントと支援		
第14回	学校心理臨床の様相 スクールカウンセリングの課題(不登校や不適応感)を中心に		

第15回	家庭教育と学校教育 マルトリートメントと学校を中心に
第16回	定期試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586019302	科目番号 / Subject code	05860193
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教育の基礎 (教育行政・制度論)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	楠山 研		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	楠山 研		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	楠山 研		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目, 教職に関する科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	kusuyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部 2 1 9 室		
担当教員オフィスアワー / Office hours	随時 (要メール連絡)		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	教育行政および教育制度の基本的な知識を身につけるとともに、具体的なテーマをもとに、教育行政および教育制度のあり方を検討する。その際、諸外国の教育行政および教育制度との比較もとりいれ、そこから日本の教育の特徴を考える。		
授業到達目標 / Goal	教育行政・制度の意味を理解するとともに、具体的で身近なテーマをもとに、そのあり方について背景を含めて検討できる。また国際比較や歴史などの視点も加えて、現在の日本の教育行政・制度の特徴について多角的に考察できる。		
授業方法 (学習指導法) / Method	簡単な講義を話題提供として、討論形式を中心に、適宜映像資料等を利用して授業を進めていく。班ごとの発表がある他、毎回発表について意見交換をしてもらう。		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	教育と社会のつながり、取捨選択、国際比較		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は指定しない。 参考書 河野和清『現代教育の制度と行政』福村出版、2008年。 その他の参考書は授業中に適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	この授業の目標が達成されているかどうかという観点から評価する。 グループ活動への評価 (相互評価を含む) 40% 授業中の小レポート等 30% 定期試験 (レポートの場合あり) 30%		
学生へのメッセージ / Message for students	ある制度がなぜあるのか、その背景を含めて考える癖をつけましょう		
授業計画詳細			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	第1回 オリエンテーション (この授業の進め方について)		
第2回	第2回 授業担当者からの提案 (1) 教育行政・制度とは何か		
第3回	第3回 授業担当者からの提案 (2) 現代における教育行政・制度		
第4回	第4回 授業担当者からの提案 (3) 現代における教育行政・制度		
第5回	第5回 討論の進め方と練習		
第6回	第6回 討論 (1) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める		
第7回	第7回 討論 (2) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める		
第8回	第8回 討論 (3) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める		
第9回	第9回 討論 (4) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める		
第10回	第10回 ここまでの議論のまとめと今後の提案作り		
第11回	第11回 討論 (5) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める		
第12回	第12回 討論 (6) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める		
第13回	第13回 討論 (7) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める		
第14回	第14回 討論 (8) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める		
第15回	第15回 教育行政・制度を学んでわかること		
第16回	試験		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586025302	科目番号 / Subject code	05860253
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教育の基礎 (教育原理)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山岸 賢一郎		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	山岸 賢一郎		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	山岸 賢一郎		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟21		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会・経済・薬・水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	yamagi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部 2 2 1		
担当教員オフィスアワー / Office hours	金曜 3 時限 (必ずメールでアポイントメントをとってください)		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	教育に関する基礎的な知見 (教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法、等) を学びつつ、教育に関わる事に関して「批判」的に考察する力を養う。同時に、教育に関わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感を養う。		
授業到達目標 / Goal	教育に関する事がついて、教育に関わる基礎的な知見 (教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法、等) を踏まえ、ひいては「主体的に、考えることができる。また、倫理観と責任感を持って、「教育」および「教職」に向き合うことができる。		
授業方法 (学習指導法) / Method	講義形式を基本とする (レジュメや映像等を適宜使用しながら講義を進め、各講義ごとに課題を課す)。講義以外に、他の受講者と意見交換をしつつ、思考内容を深め、発展させる時間を設ける。なお、主体的学習促進支援システム(LACS)を活用して授業を行う。各自で事前に使用法を確認しておくこと。 下に示す授業内容は、必要に応じて (学習の進捗や学習者の状況に応じて)、微修正することがある。		
授業内容 / Class outline / Con	第1回 オリエンテーション (「批判」的思考について) 第2回 「子ども」とは誰か (歴史・思想的観点1) 第3回 「学校」とは何か (歴史・思想的観点2) 第4回 「学校」に通うということ (歴史・思想的観点3) 第5回 戦前戦中の教育は何を目指したか (歴史・思想的観点4) 第6回 戦後および現在の教育は何を目指しているのか (現代の教育理念1) 第7回 青少年は「凶悪化」したか (現代の教育理念2) 第8回 「家庭の教育力」は低下したか (現代の教育理念3) 第9回 「自律」という教育理念 (現代の教育理念4) 第10回 教育課程と学習指導要領 (教育課程の意義と編成1) 第11回 「ゆとり」と「学力」をめぐって (教育課程の意義と編成2) 第12回 教育課程をどう編成するか (教育課程の意義と編成3) 第13回 教育課程の評価と改善 (教育課程の意義と編成4) 第14回 いま「学校」の「先生」であるということ (これからの学校像・教師像を編む1) 第15回 まとめと補足、そして発展 (これからの学校像・教師像を編む2)		
キーワード / Key word	批判, 吟味, 教育原理, 教育哲学, 教育倫理, 教育史, 現代教育思想 (その他, 上記の授業内容も参照)		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	LACS (長崎大学主体的学習促進支援システム) を活用し、適宜資料を配布する。 以下に掲げる参考図書は、開講前、および開講中に一読することを推奨する。 他の様々な参考図書・参考資料については、授業の際に適宜紹介する。 ・江藤恭二ほか『子どもの教育の歴史 新版』名古屋大学出版, 2008 ・広田照幸『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター, 2012 ・柴田義松『教育課程論 第二版』学文社, 2008		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	・授業ごとに課す課題 (小レポートおよび小テスト) 40% ・最終レポート 60% なお、LACS上で詳細な採点方法を提示する。		

受講要件（履修条件）/Requirements	授業外で週2時間以上の学習をすること。また、全ての授業について、以下の点はこなすこと。 1．LACSで提示する講義資料は事前にダウンロードし（印刷もしておくとい）、一読する。また、そのテーマについて自分なりに考えておく。 2．授業後には講義資料および紹介した文献を活用し、考察を深め、今後の授業および最終レポートに備えておく。
学生へのメッセージ/Message for students	自分の中にある常識・信念が揺さぶられる、そんな体験を提供できればいいのですが……。いずれにしろ、教育について考えるのは、簡単そうに見えて、実際は本当に難しく、だからこそ面白いのです。一緒に楽しみましょう。